

仲間との絆を大切に

私は時々保育士養成校の方から学生の動向などについてお話を伺うことがあります。近年短期大学については、閉学や4年制大学への一本化が相次いでいるのですが、さらに拍車がかかるのではないかという気がかりなお知らせがありました。この2024年度、保育士や幼稚園教諭を養成する学科への入学者が激減しているそうなのです。少子化による学生数の減少が根本にあると思いますが、中には保護者が保育士は大変だからやめなさい、と止めるケースもあるそうです。

■保育士のイメージは下降気味？

もともと保育士は労働時間が長い、給料が安いなどのマイナスイメージがありましたが、このところの不適切保育についての報道で、さらにマイナスイメージが強調されたことが要因にあるのではないかと感じています。昨今は行政からの補助金も手厚くなり、労働条件的には改善されてきていますが、資金はあっても人材確保ができず、慢性的な人手不足に陥っている園がたくさんあります。結果として一人ひとりの負担が大きくなり、退職者が増え、さらに人手不足に拍車がかかる・・・という悪循環を生み出しています。保育士は大切な命をお預かりする職業なので、日々かなりの重圧を感じていることは確かです。ですがそれ以上に喜びの多い、とても素敵な職業です。それを実感できなくなって離職していくのは悲しい限りです。

■法人合同研修で感じた大切な仲間の存在

辛いときや苦しいとき、仲間がいたから頑張れた、というご経験がある方も多いと思います。先日行われた法人合同研修の際に「仲間っていいな」と改めて実感いたしました。法人では年1回、法人合同研修を実施しています。関東全員と福岡からは数名の職員が一堂に会し、さらに福岡と会場を中継で結んでハイブリッドで進めています。今年度のテーマは「あゆみ ～これまでの100年、私たちが作るこれからの100年～」。理事長と古参職員の対談があり、モンテッソーリ教育を導入した頃の話や、園児獲得の取り組みについての苦労話、関東に初進出してきた当時の話などを聞きました。並々ならぬ苦労があったと思いますが、今では笑い話やいい思い出として語る姿に、一緒に頑張った仲間の絆を感じました。さて、研修の中に5分ぐらいで各園の「職員出し物」があります。事前に準備するわけですが、『内容を考える・演出する人』『動画を作る人』『出演する人』『当日会場で盛り上げる人』など【得意を活かして】皆で挑み、順位を競います。皆で大笑いしながら各園の発表を見るのですが、そんな時にも「仲間の絆」を感じられる楽しいひと時です。そして同じ空気感を共有することで、全員の仲間意識も育まれていくのだなと思いました。今回は知識を深める研修というよりは、100周年を一緒に迎えられることに感謝し、次の100年に向けての一步を踏み出すための基盤作りを意識した内容になりました。

■これからの100年に向けて

これから新たな一步を踏み出すにあたり、信頼し合える人とのつながりの中で、子どもの成長を育む環境を整えたいと思っています。目指すのは「子ども達のために」言いづらいことでも言い合える、そしてお互いを認め合える風通しの良い関係性です。そのためには専門性に関する研鑽も積みながら、人間性も高めていきます。「〇〇先生みたいな保育士になりたい」と子ども達の憧れの存在になれるよう、感謝と笑顔を忘れず過ごしてまいります。
(飯塚)